Ⅰ．法人本部

《総括》

社会福祉法第24条「経営の原則」の第１項には、「社会福祉法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図り提供する福祉サービスの質の向上及び事業経営の透明性確保を図らなければならない」と規定されている。

また、時流と共に社会福祉法人の位置付けが大きく変化し、社会福祉法の改正により、同第２項に追加として、福祉ニーズへのきめ細かい対応と既存制度で対応できない人々を支援する位置付けとして公益性と非営利性を備えて貢献する体制を求められている。

この枠組みは、新型コロナウィルス感染症感染症拡大で変容した現在でも変わっておらず、社会福祉法人には、地域に貢献するという使命があり、採算がとれない事業にも取り組んでいかなければならない。

一方、継続的な通所事業所の定員割れ、コロナ禍で利用者の利用減が続き障害福祉サービスでの収入は減少し、物価の高騰、職員給与等の増加などで支出は増えており十分な収支差額が確保できないことから、前期の中期事業計画にあった新規事業を延期せざるを得なくなった。

このことから利用者・地域に選ばれる社会福祉法人として、サービスの自己点検など自法人の強み弱みの把握に努め、時代に即応した福祉サービスを実施すべく、再度策定された中期事業計画に基づき、今後の事業展開や経営改革に取り組む必要がある。

１．重点目標に対しての評価　　評価：〇できた・△だいたいできた・×できなかった

（1）人権の尊重

年間計画	取り組み	評価
利用者の人権の擁護・虐待の防止等のため必要とされる措置を講じます。また、身体拘束等の適正化を図るため必要とされる措置を講じます。（委員会の設置等）	虐待が疑われる行為はすべて事業所から安城市へ通報しており、適切に対応した。 事業所毎の委員会の取り組みが消極的なところがみられる。	△
利用者やその家族等からの苦情、相談に誠意を持って的確に対応するために、是正、改善の仕組みを点検し、的確に運用します。	苦情・要望には真摯に向き合い、解決に努めたが、マニュアルに定められた第三者委員への報告を怠っていた。	△

（2）サービスの質の向上

年間計画	取り組み	評価
さらなる重度・高齢化に対応していくため、ぬくもりの郷を日中サービス支援型グループホームへの移行を検討していきます。	移行に必要な施設の改修費用の確保が困難なため、事業の延期となった。	×
３年後の「安城市虹の家」の指定管理者終了に備え、就労継続Ｂ型事業所等日中支援事業所を整備するよう安城市と協議しつつ検討していきます。	安城市虹の家の指定管理者は引き続き応募することとし、新規事業については建設費用の確保が困難なため、延期となった。	×

グループホームが現在飽和状態であり、新たなグループホームの整備をするよう検討していきます。	新規事業については建設費用の確保が困難なため、延期となった。	×

（3）地域における公益的な取り組みの推進

年間計画	取り組み	評価
災害時の取り組みとして、特定福祉避難所の取り組みへの備え等、地域住民の安全・安心な生活の確保に取り組みます。	安城市と福祉避難所としての協定を結び、事業継続計画の策定も継続していった。	○
ＳＤＧｓ「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」は国際社会共通の目標です。法人の持つ施設と人材を最大限に活用し、福祉サービスの提供と住民や関係機関との連携を図りながら、そこから出た新たなニーズに応えるべく、地域・利用者及びその家族・職員が幸せになれるような数年後を見据えた事業運営と支援活動を継続して行っていきます。	「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会」の実現として、まずはこの先法人が存続しづける必要性を職員に周知をした。その上で今後実行すべき課題を明確にしていくよう道筋をつけた。	△

（4）生活環境・利用環境の向上

年間計画	取り組み	評価
新型コロナウィルス感染症をはじめとした感染症の予防・拡大防止のためのマニュアルを整備するとともに、マニュアルが励行されるよう職員教育を徹底します。	法人内で新型コロナウィルス感染症の陽性者が出た場合にもマニュアルに従い、適切に対処できた。	○

（5）人材の定着に向けた取り組みの強化

年間計画	取り組み	評価
採用後３年未満（特に１年未満）の職員に対するフォローアップを意図的、計画的に行います。	座学とＯＪＴを取り混ぜながら研修を行ってきたが、早期の退職があり、定着には至らなかった。	△
一般事業主行動計画の確実な実施のため、ワークライフバランス（仕事と生活の両立）に配慮した取り組み（勤務時間の適正化、有給休暇の計画的な取得等）、女性の活躍を推進します。（役職者に女性の積極的な登用・産休・育休の円滑な取得及び復帰）	超過勤務は業務の効率化を進め、目標の10％減を上回る17％減を達成できた。有給休暇は89％の取得ができ、目標をできた。産休・育休の該当者は全員取得した。役職者への登用は本年度１名女性職員を主任格へ昇格させた。	○

（6）人材の育成

年間計画	取り組み	評価
職員を適正に評価し、職員一人ひとりの自己実現、キャリア形成と組織が期待するものを調和させた人事制度・人事考課等の育成システムを見直します。	前年度に引き続き、中小企業診断士にアドバイザーとして人事考課者訓練に参画してもらい、人事考課の公平性、納得性を高めるよう努めた。	○
ＯＪＴ（職務を通じての研修）を「職場研修の基本」に位置付けるとともに、職員の成長段階に応じた配置とそこで必要となる各種教育、研修の実施を行い、キャリア形成や能力開発を行います。	コロナ禍の中、研修計画を策定し、一人ひとりの職員に合った研修に参加させた。本人のキャリア形成のため資格取得の奨励、研修希望をとりながら、より実効性のあり研修内容に努めたが全体への周知が不足している。	△
主任・主任候補者等のリーダー層の育成に取り組むと同時に目指すリーダー像を明確にします。リーダー層の教育を充実し、次世代の管理者、経営層の後継者の選抜、育成に努めます。	人事考課研修において主任・副主任が目指すべき職員像について、理解を深めた。講師の中小企業診断士に次世代リーダーの選抜についてアドバイスを受けた。	△

（7）コンプライアンスの徹底

年間計画	取り組み	評価
職員に対する社会福祉関係法令、労務関連法令、虐待防止法等の適切な理解を促す場の提供に努め、社会的ルールの遵守の重要性を普及・啓発します。	福祉施設の職員としてのルールの徹底を各管理者に課してきたが、それぞれ温度差があり、職員一人ひとりの十分な理解には至らなかった。	△

（8）健全な財務規律の確立

年間計画	取り組み	評価
社会福祉法の改正の趣旨に沿って適正な社会福祉充実残額を計上し、社会福祉充実計画の在り方について、地域のニーズに沿った長期的な視点に立ち、見直しをしていきます。	地域のニーズに沿った計画を策定したが、法人の中期事業計画の変更があり、次年度の社会福祉充実計画は変更を余儀なくされることになると思われる。	△
常に利用者サービスを中心にした事業展開が図るとともに、その事業の将来性、継続性を見通した経営管理を行うとともに、限りある資源を有効に使い、効果性、効率性の高い経営管理を実現するよう努めます。	社会福祉法人の公益性を鑑み、収益性が見込まれない部分への参入も含め、職員から意見を求める取り組みを実施したが、実が伴わなかった。	△
会計責任者である管理者には財務管理能力の向上のための取り組みを行います。	支援の現場には積極的に指導力を発揮しているが、会計となると苦手意識が未だ見られる。	△

２．運営事業

（１）第二種社会福祉事業

ア．生活介護事業所ぬくもりの家（定員40名）

イ．生活介護事業所ぬくもりワークス（定員60名）

ウ．生活介護事業所まるくてワークス（定員60名）

エ．共同生活援助事業所アットホーム（定員14名）

オ．多機能事業所ぬくもりの郷（定員20名）

（【生活介護】12名【放課後等デイサービス】8名）

共同生活援助事業所ぬくもりの郷（定員20名）

短期入所事業所ぬくもりの郷（定員６名）

カ．相談支援事業所　ぬくもり

キ．就労継続支援Ｂ型事業所安城市虹の家（定員20名）指定管理の受託

（２）公益事業

ア．地域生活支援事業

日中一時支援事業（ぬくもりの家・ぬくもりワークス・まるくてワークス・ぬくもりの郷）

３．役員会等の開催状況

（１）第１回理事会

令和４年６月２日（木）ぬくもりの郷

出席理事６名・監事１名

（２）第２回理事会

令和４年１２月１２日（月）ぬくもりの郷

出席理事５名・監事１名

（３）第３回理事会

令和５年３月２４日（金）ぬくもりの郷

出席理事６名・監事１名

（４）第１回評議員会

令和４年６月２７日（月）ぬくもりの郷

出席評議員８名・監事２名・立会理事２名（理事長・常務理事）

（５）監事監査

令和４年５月１６日（月）ぬくもりの郷

出席監事２名・立会理事１名（常務理事）

（６）評議員選任・解任委員会

令和４年６月２日（木）ぬくもりの郷

出席委員３名・立会理事１名（常務理事）

４．リスクマネジメントの状況（延べ件数）　　※（　）昨年度実績

	家	ワ	ま	ア	郷	相	虹	本	計
ヒヤリハット事例	50	26	18	22	18	16	19	1	170(63)
事　故　報　告	13	25	30	2	34	5	15	6	130(56)
苦　情　報　告	2	3	4	0	3	1	3	0	16(18)
虐待の疑いの通報	0	0	2	1	0	0	0	0	3(7)

５．第三者評価の受審状況

全事業所が岐阜後見センターにて第三者評価を受審した。評価では、良い点や改善すべき点などにいて指摘を受けた。改善すべきと指摘された点については、 継続的に改善に向けた取り組みを行うとともに、評価の良かった点についても更なる改善に努めていく。

６．職員研修の実施状況

ＯＪＴ（職務を通じての研修）を「職場研修の基本」に位置付けるとともに、職員の成長段階に応じた配置とそこで必要となる各種教育、研修の実施を行い、キャリア形成や能力開発を行った。

強度行動障害とみられる利用者が増えてきたことから、全事業所において強度行動障害支援者養成研修を積極的に受講させた。

７．会報の発行

法人の会報を発刊し、施設の内容などの紹介を行い、地域住民の理解を深めるよう努　めた。

（１）発行回数　年２回

（２）発行部数　1,100部

（３）配 布 先　保護者・手をつなぐ親の会会員・福祉関係施設・行政機関・ボランティア団体
北明治連合町内会・赤松町内会・池浦町内会・城南町内会・学校等

８．職員の在籍状況（育児休業中職員を含む）

（１）採用と退職状況　　単位：人

	R04年度当初	採用	退職	R05年度当初
常　勤	55	1	3	53
非常勤	89	10	13	86

※常勤・非常勤間の転換は採用・退職ともに含む

（２）有給休暇取得状況

勤続年数	１年未満	１年以上 ３年未満	３年以上 ５年未満	５年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上	平均
取得率（%）	0.0	101.3	85.2	86.1	96.4	92.5	85.8	89.4
取得日数（日）	0.0	11.0	11.5	15.9	16.9	18.5	15.9	15.3

（令和３年度取得率88.6%、日数15.0日）

０９．借入金の状況

（１）福祉医療機構からの借入状況（令和５年３月３１日現在）　　単位：円

借 入 目 的	借入年度	借入金額	令和４年度償還状況		借入残高
			元金	利息	
まるくてワークス施設整備	17年	30,000,000	1,500,000	73,500	4,500,000
ぬくもりの郷施設整備	24年	80,000,000	4,032,000	527,100	39,984,000
ぬくもりの郷Ⅲ施設整備	27年	30,000,000	2,016,000	120,330	14,952,000
計		140,000,000	7,548,000	720,930	59,436,000

（２）借入金の償還財源の状況　　単位：円

区　　分		金　額	内　　訳
元利償還金（令和４年度）		8,268,930	元金7,548,000 利息720,930
財源	自己資金	5,990,930	本部会計
	補助金	2,278,000	愛知県（民間社会福祉施設運営費補助金）
令和５年度償還予定額		8,182,410	元金7,548,000 利息634,410

10．寄付金の状況

（１）事業活動による収支の部　　単位：円

	本	家	ワ	ま	ア	郷	虹	計
家保護者会	1,323,000	29,969						1,352,969
ワ保護者会	2,605,000							2,605,000
ま保護者会	1,616,000			10,000				1,626,000
郷保護者会	489,000							489,000
企業・団体	24,977	66,630	9,450	26,000				127,057
個　　人			20,000		49,048			69,048
計	6,057,977	96,599	29,450	36,000	49,048	0	0	6,269,074

Ⅱ．ぬくもりの家

《総括》

コロナ禍においても健康増進と地域交流や社会参加のため可能な限り「外へ出る」ことに努めてきた。またウィズコロナの考えから緊急事態宣言中以外は感染対策をした上でボランティアや実習生を受け入れてきた。

７，８月に多くの利用者・職員がコロナ陽性者となり計８日間施設を閉所した。利用者のワクチン接種については嘱託医の協力で施設内でスムースに行うことができた

第三者評価機関が実施したご家族への調査アンケートにおいては事業所に対して概ね信頼いただいている回答結果が得られたがサービス満足度に関する質問回答項目がなかった。来年度は事業所としてサービス満足度調査を実施する。

１．重点目標に対しての評価　　評価：〇できた・△だいたいできた・×できなかった

（１）権利擁護意識の向上と支援員のスキルアップ

年間計画	取り組み	評価
Ｗｅｂ学習「サポーターズカレッジ」を継続して視聴することで権利擁護意識を高め、維持します。	ミーティング開始時に必ず視聴できている。講義をどのように支援に活かすか意見交換までできればさらによい。	〇
「本人らしさ」「その人らしさ」とは何かを追求し、ストレングス（長所・強み）に着目した支援を行います。また、自らの支援を本人中心の視点で振り返ります。	ミーティング時に毎回「本人の強み」に着目して支援を心がけるという確認している。また常勤職員から非常勤職員へこのことが周知できている。	〇
「意思決定支援」には未体験のことを体験する①「意思形成支援」、言葉以外で思いを表出できるよう工夫された②「意思表出支援」、またその③「思いを汲み取るスキル」が必要です。さらに汲み取った思いをサポートして実現させる④「意思実現支援」がゴールです。以上を心がけながら「意思決定支援」を実践します。	可能な限り取り組んでいるが、①～④を全利用者へはできていない。特に③、④は誕生日外出などのイベントで実現しているが遍くとはいえず課題が残った。ただ、「意思決定支援」という意識は職員間で確実に醸成されている。	△
個別支援が基本ですが、支援する側は「チーム」なので「チームで行う個別支援」であることを忘れないよう朝礼・終礼・ミーティングでの合意形成を大切にします。	朝礼・終礼での情報共有がなされ課内外を問わず連携が取れている。課内ではミーティングを活用して合意形成ができていた。	〇
常勤非常勤問わず会議や研修を通して他事業所スタッフと交流し、知識を深めます。	常勤は法人内外の研修や会議に参加する機会があるが非常勤にはそれが乏しく課題が残った。	△

支援員は常に権利擁護意識と支援スキルの向上に努めます。そのため支援中は以下の６つを実践します。①担当課以外に積極的に入る②利用者さんとは一人の大人として接する③過度なスキンシップを避ける④ひとりひとり異なる適切な距離感でコミュニケーションを取る⑤笑顔で気持ちよく挨拶する⑥事故やヒヤリハットにつながる支援員どうしの私語は慎む。	虐待防止委員会のチェックリスト等の取り組みにより権利擁護家意識は高まっている。が、②③④⑥は全スタッフで統一できていない現状があり今後の課題である。	△

（２）地域とのかかわり

年間計画	取り組み	評価
市民として積極的に外へ出て利用者さんを知っていただく機会とします。そのことが「地域の福祉力アップ」「障害のある方が普通に歩いている“安城（まち）”の風景をつくること」につながると考えます。	毎日のように外へ出かけ地域の人たちと挨拶をかわすという交流ができている。アンフォーレ等地域の社会資源の利用者として“安城（まち）”の風景をつくることもできた。	○
町内会、ボランティアネット北明治の会など地域とのネットワークを大切にします。	コロナ禍ではあったが可能な限り北明治地域の方々と行事を通じて交流することができた。	○

（３）環境および健康増進

年間計画	取り組み	評価
看護師と支援員の連携・役割分担によりインフルエンザ等の感染者ゼロを目指します。	クラスターが発生したがより看護師と支援員の連携が密になり感染予防に努めることができた。	△
消毒作業を毎日行い、清潔で安全な環境を整えます。	完璧とはいえないが可能な限り毎日清掃や消毒を行うことができた。	○
利用者さんに「わかりやすい伝え方」を心がけます。写真やイラストを使い、「見える化」に努め安心につなげます。	すべてに結果が見られるわけではないが最大限の工夫で「見える化」に努めた。	○
四季を感じる「ウォーキング」を活動の中心に据え、良質な睡眠や風邪予防に努めます。	ほぼ毎日ウォーキングに出かけ健康増進に努めることができた。	○

《生活介護事業》

1．年間利用実績　※（　）昨年度実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数（人）	男性	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
	女性	18	18	18	18	18	18	17	17	17	17	17	17	210
	計	38	38	38	38	38	38	37	37	37	37	37	37	450
出席率（%）		85.1	83.4	83.4	76.3	72.5	85.6	87.9	85.6	82.5	83.8	83.9	85.0	82.9 (84.1%)

※1．在籍者数は初日在籍数

※2．出席率は在籍数に対する出席率

2．年間行事

月	日	施　設　行　事
4	1	新利用者歓迎式
5	10	健康診断（半田市医師会健康管理センターによる）
	27	ぬくもりチャレンジ運動会
6	24	歯科健診
9	16	避難訓練
10	8	日帰り旅行（明治村コース、鞍ヶ池・香嵐渓コース）
	13	えだ豆収穫交流
	20	歯科健診
	21	日帰り旅行（リトルワールドコース）
	28	日帰り旅行（モンキーパークコース）
11	2	インフルエンザ予防接種
	15	避難訓練
	25	ぬくぬくふれあいコンサート
12	16	クリスマス会
1	10	新成人を祝う会
	20	防災訓練
	27	新年会
2	3	豆まき

月活動	誕生日会	お出かけランチ	嘱託医健診	山の幸染め

	体重測定	出張カット		

※個別面談はサービス等利用計画に合わせて誕生月を基準に６ヶ月ごとに実施

３．ボランティア受入状況（延べ人）　※（　）昨年度実績

区　分	計	区　分	計	区　分	計
一　　般	1	大学・専門学校	7	社　　協	0
北明治ネット	36	更生保護関係	0	民 生 委 員	6
Ｊ Ａ 青 年 部	15	高　校　生	0	中　学　生	0
音 楽 協 会	5			合　計	70(39)

４．実習生受入状況（延べ人）　※（　）昨年度実績

区　分	計	区　分	計	区　分	計
中　学　生	0	大　学　生	157	学 校 教 諭	0
専 門 学 校 生	48	高　校　生	24	合　計	229(160)

《日中一時支援事業》

１．事業内容

（１）日中における活動の場を確保し、利用者の情緒安定を図ると共に、家族のレスパイトを目的の事業。

令和４年度は地域の困難事例である１名の利用者が20回利用。

Ⅲ．ぬくもりワークス

《総括》

令和４年度は安城特別支援学校から１名、在宅の方１名が加わり51名でスタートした生活介護事業であった。昨年度は就職を希望していた利用者２名が、５月に就労移行支援事業所・８月に就労継続支援Ｂ型事業所へそれぞれステップアップした。移動するにあたっても実習を行い、相談支援専門員と共に実習の様子を見学し、特性を伝えるなどの連携を図った。また外部（就労移行支援事業所）から講師を招いて就労セミナーを開催し、就労に関心を持つ機会と就労に必要なスキルを学ぶ場を提供した。

作業では新たに３社と取引の打ち合わせを行い、来年度に向けて調整を行った。円高の影響を受けて軽作業の収入は減少傾向であったが、販売機会を増やしパウンドケーキなど施設製品の売り上げが上昇したため、前年度とほぼ同じ売上高となった。また「やりたい」を大切にして利用者が新しい作業や工程に挑戦することで様々な作業に取り組めるようになり、属人化していた作業も複数の利用者が取り組めるようになった。

愛知県からのＰＣＲスクリーニング検査を全職員対象に２週間毎に行い、感染予防と支援者の安心に繋げたが、１月からコロナウイルス陽性者が合計12人発生したため、２月10日から13日までの土日を含めて４日間の施設閉鎖をした。

人材育成においては安城市虹の家と合同で虐待防止研修・性教育研修・高次脳機能障害研修を行い、正しい理解と支援方法について学んだ。常勤５名が強度行動障害支援者養成研修を受講し、支援の向上を図った。

１．重点目標に対しての評価　　評価：〇できた・△だいたいできた・×できなかった

（１）利用満足度の向上（利用者に対する基本姿勢）

年間計画	取り組み	評価
利用者に寄り添って、意思決定を大切にします。（常に権利擁護意識に努めます。）	「やりたい」を大切に挑戦したい作業があれば、積極的に行い、携われる工程や品目が全体的に増えた。また、就労を希望していた利用者２名が就労移行と就労支援Ｂ型へ移動された。	〇
個々のニーズに合わせて働くことに対する意識を高められるような支援を行います。	資源化センター（施設外での作業）へ３名の実習を行ったが、正式メンバーとして従事できるようになった。就労セミナーを実施して働くために必要なスキルを学んだ。働いた工賃で欲しいものが買えるという意識までには至っていない。	△
四季を体感できるような充実した活動を提供します。	春には桜、秋には秋桜を見にウォーキングへ出かけたり、節分には職員が鬼に扮して豆まきを行ったり、ひなまつりでは手巻き寿司を行った。	〇

（２）地域との連携を強化（社会に対する基本姿勢）

年間計画	取り組み	評価
町内会行事、福祉祭りなどは愉しく参加します。	福祉まつりや地域のまつりには利用者も一緒に参加して販売を行った。町内のまつりにはコロナの影響で参加を辞退した。環境美化保全活動を毎年実施し、町内の方と一緒に清掃を行った。	△
民生委員やボランティア等を積極的に受け入れ、福祉に対する理解の促進を目指します。	末広民生委員の方が安城市虹の家との繋がりから見学するなど、定期的な民生委員の訪問やボランティアは積極的に受け入れを行った。	○

（３）人材育成と職員のスキルアップ（福祉人材に対する基本姿勢）

年間計画	取り組み	評価
社会福祉士や介護福祉士等の実習生を受け入れ、新たな人材確保と育成に努めます。	社会福祉士・介護福祉士の実習の受け入れを行った。カリキュラムに合わせて他施設の見学など視野を深めた育成を行った。	○
必要に応じて支援・介護技術など内外の研修や勉強会に参加してスキルアップを図ります。	虐待防止研修を常勤、非常勤共に実施し、常勤では２回性教育研修と高次脳機能障害研修を行った。また個々のスキルアップのための強度行動障害支援者養成研修も受講した。	○

（４）生活環境・利用環境の向上(安心・安全なサービス提供に対する基本姿勢)

年間計画	取り組み	評価
感染症予防・拡大防止のため、手洗い・手すり等の消毒・マスクの着用・対面にならない環境作りに努めます。	施設内消毒を毎日３回行い、手洗いの唄で手洗い習慣を身に着けるように促した。対面とならないように作業・食事環境を継続して整えた。	○
午前と午後の２回検温を行い、体調管理に努めます。	午前・午後と２回検温と記録を行い、発熱が確認されたときは速やかに早退をお願いするなどの対応を行った。	○
感染症発生時などではサービスの提供を継続するための情報提供を行います。	コロナウイルス陽性者が複数確認された時には案内を配布して注意喚起を行った。また、感染の疑いがある方には独自に抗原検査を行い、安全の確保を行った。	○
公用車の安全運転に努めます。	常勤には運転免許証の確認を不定期で行い、粗暴運転にならにように促した。３月	○

	から公用車を運転する時にはアルコールチェックを行った。	

《生活介護事業》

1．年間利用実績　※（　）昨年度実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数（人）	男性	34	34	33	33	33	32	32	32	33	34	34	34	398
	女性	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	17	204
	計	51	51	50	50	50	49	49	49	50	51	51	51	602
出席率（%）		93.9	82.9	94.3	92.3	83.9	94.4	92.9	96.1	83.6	86.2	73.8	90	90.5 (87.7%)

※1．在籍者数は初日在籍数

※2．出席率は在籍数に対する出席率

2．年間行事

月	日	施　設　行　事
4	1	入所式
	12	保護者会総会
5	11	健康診断
	17	防災訓練
	31	赤松保育園とじゃがいも掘り交流会
	－	生活セミナー（講師　池田巡査）（中止）
6	－	いちご狩り(中止)
7	12	保護者会
	－	赤松町内夏祭り（中止）
8	16	納涼会
9	2	名フィルコンサート
10	2	安城市福祉まつり
	5	ソフトボール大会
	11	保護者会
	22	安城市福祉体育祭

	28	避難訓練
11	2	日帰り旅行　東山動物園
	9	日帰り旅行　ナガシマスパーランド
	17	嘱託医健診・インフルエンザ予防接種
	30	赤松町内環境保全活動
12	7	就労セミナー　（講師　平田支援員　くるくる）
	21	クリスマス会
	－	あんぷくまつり　（中止）
1	4	初詣
	9	成人式
	20	赤松町内公民館祭り作品出展
2	14	保護者会
3	20	無線通信訓練
	22	お楽しみ会
	24	避難訓練
	－	ひな祭り会（中止）

月活動	グラウンドゴルフ	ストレッチ	デンパーク	整膚
	運動	映画	創作	体重測定
	血圧測定	嘱託医健診	外食（不定期）	

3．ボランティア受入状況（延べ人）　※（　）昨年度実績

区　分	計	区　分	計	区　分	計
一　　般	8	民生委員	0	高　校　生	65
保　護　者	0	大　学　生	10	生　け　花	0
末広町福祉委員	6	中学生	2	合　計	91(103)

4．実習生受入状況（延べ人）　※（　）昨年度実績

区　分	計	区　分	計	区　分	計
中学生職場	10	大　学　生	143	学校教諭	0
特別支援学校	10	高　校　生	32	看護専門学校	22
慈恵福祉保育	0			合　計	217(187)

５．作業内容（作業別収入）　※（　）昨年度実績

取　引　先	売上高（円）	内　　容
農作物	133,714	農作物の販売
タクマ産業（有）	659,340	自動車部品（ウレタン）選別
菓子製造（パウンドケーキ）	1,076,784	菓子の製造・販売
菓子製造（パン）	11,080	菓子の製造・販売
自主製品	10,890	縫製品製造・販売
富士カーボン（株）	514,598	自動車部品の加工
ＭＵコーポレーション	34,824	マット清掃等
安城電機	77,000	マスク封入作業
安城市（清掃事業所）	107,981	段ボールコンポスト製造・販売
安城市（清掃事業所）	2,937,000	ＥＭボカシの製造・配達
安城市（維持管理課）	18,000	リサイクル自転車の清掃
安城市（清掃事業所）	14,000,667	ペットボトル仕分け作業
ナカムラ製菓	817,962	委託販売（せんべい）
真輝	5,100	ＤＶＤケースクリーニング
アルミ缶販売（安城貿易）	16,950	アルミ缶回収
ミカテック（株）	56,826	軽作業（新聞紙切断）
（株）アチーヴ	337,378	自動車部品加工
（株）杉本商会	129,210	販促商品（ゴミ袋）封入作業
（株）フォーユー商品	130,805	委託販売（マカデミアナッツボール）
（株）神谷コンクリート	109,903	パッキンはめ
アンジョウハーツ（商工会議所）	163,761	キャップパネル梱包・商品梱包等
（株）サンブロードケミカル	76,522	自動車部品拭きあげ作業
デンソー（株）高棚製作所	38,500	エコキャップパネル作成
（有）クズハラゴム	729,248	バリ取り作業
安城市指定ゴミ袋販売	333,020	安城市指定ゴミ袋の販売
その他	10,000	施設カレンダー・バザー用品・西三セルプ等
合　　計	22,537,063	（22,120,940円）

６．工賃支給実績

４月～３月工賃支給額計　　9,829,029円　　（前年度　　9,848,457円）
１ヶ月平均工賃支給額　　16,273円　　（前年度　　16,225円）
※１人あたり・賞与含む・小数点以下四捨五入

《日中一時支援事業》

１．事業内容

（１）日中における活動の場を確保し、利用者の情緒安定を図ると共に、家族のレスパイトを目的に事業を行った。

２．年間利用実績（延べ人）　　※（　）昨年度実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者数	13	12	14	14	13	12	14	11	12	12	10	13	150 (192)

Ⅳ．まるくてワークス

《総括》

昨年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定通り行事は実施できず、利用者の活動も制限されたが、少しでも利用者が楽しめるように、規模を縮小して安全対策を取り可能な限り行事を実施した。７月に３日間職員及び利用者が新型コロナウイルスに感染し施設閉所をした。７月から12月まで新型コロナ感染者が続いたこともあって、平均出席率は伸びなかった。９月と２月には新型コロナワクチン接種、12月にインフルエンザ予防接種を実施して健康管理に努めた。ボランティア及び実習生の受入れ、日中一時事業は、健康状態を確認した上で、希望される方は積極的に受け入れを行ない、前年よりも約3割増えた。

また、授産事業は、企業に作業量を増やしていただけるよう交渉し、何とか作業収入は増えたが、水光熱費等経費が増額しているため、一人当たりの平均工賃は微増であった。

人材の定着については、常勤１名が年次途中で退職、非常勤職員も数名の入れ替わりがあり、チームワーク力強化に課題が残る。

１．重点目標に対しての評価　　評価：〇できた・△だいたいできた・×できなかった

（１）利用者満足の向上と健康管理を図ります。

年間計画	取り組み	評価
本人の意志決定を尊重した面談を行い、社会生活力の向上と**生産活動をとおして**「いきがい」や「よろこび」を感じられる個別支援計画を作成し、支援にあたります。	面談時に本人の希望や要望を確認する機会はあるが、実際に聞き取れているか不十分なところもある。生産活動は、どの利用者さんにも取り組み支援計画書にも反映した。	△
本人の希望するサークル活動や作業等の選択と朝礼等で発言できるような環境をつくり、意思を表出する場と**サークル活動で作成した作品を披露する機会を**増やします。	サークル活動は、1年を通し希望に沿ったものに参加する。毎週月曜日の朝礼時に週末の過ごし方などを発表する機会を設けている。 書道サークル・絵画サークル生け花サークルの作品を池浦文化祭・中部公民館祭りの作品展示に出品することが出来た。	〇
利用者満足度アンケートや**給食会議**を実施して、サービス向上に反映させていきます。	利用者満足度アンケートを年に1度、給食会議は月に1度実施。給食会議では利用者がメニューの要望を伝えられることや、日帰り旅行を観光バスで行くことが出来たことがモチベーションアップとなっている。第三者評価を岐阜後見センターで受審サービス向上に努めた。	〇
健康状態の把握（検温、血圧測定、嘱託医	毎日の午前・午後の検温の実施。作業療法	△

健診、健康診断、感染症予防等）に**努め、定期的**に専門職（ＯＴ）の指導の下、機能低下防止と保持に取り組みます。	士による利用者の健康状態の把握に努めた。	

（2）地域との連携の推進と強化を図ります。

年間計画	取り組み	評価
大規模災害発生時における特定福祉避難所としての協力体制の確認や町内会との地域連携を活かした防災力の強化を図り、防災意識の高揚を図ります。	事業所の避難訓練は実施したが、地域と連携しての取り組みはなかった。備蓄品の賞味期限が今年度切れたため、備蓄品の入れ替えをおこなった。また賞味期限が切れる前に備蓄品の試食も行った。	△
民生委員や地域の方等のボランティアを積極的に受け入れ、障害福祉の理解促進を図るとともに風通しのよい職場づくりを目指します。	中学生ボランティア・民生委員の受け入れをおこなった。その中で施設説明に利用者にかかわってもらう場面を作り障害者福祉の理解を深めてもらう機会を設けた。	○
福祉まつりや公民館祭、福祉事業所のイベント等の販売会に、新型コロナウイルス対策をした上で、利用者さんと自主製品の販売や展示等で積極的に参加をして地域交流を図ります。	福祉まつりや西三河セルプ・公民館祭りに販売参加した。上半期は、新型コロナの影響により販売機会は少なかったが、下半期は販売機会も増え参加することが出来たが、職員のみでの参加であった。	△
近隣の農林高等学校生徒と農業体験など交流の機会を設け、障害者への理解を深めます。	8月に安城農林高校の学生とまるくてワークスの利用者と一緒にえだ豆の収穫をおこなった。収穫体験を通してお互いの理解（農業と障害福祉について）を持つ機会となった。	○

（3）人材の育成とチーム力向上

年間計画	取り組み	評価
社会福祉士や介護福祉士等の実習生を受け入れ、新たな人材の確保と新しい人事考課基準に基づき、法人理念や基本方針の理解を深め**「法人の求める人材像」**に向けての育成に努めます。	社会福祉士実習3名・介護福祉士４名の実習を受け入れた。非常勤職員とのフィードバック面談では「法人の求める人材像」を改めて読み合わせることを実施した。	△
ＷＥＢ学習「サポーターズ・カレッジ」や福祉協会等の研修をとおして専門的知識や権利擁護意識の習得と向上に努め、スキルの向上を図ります。	課ミーティングでサポーターズカレッジの視聴や支援の振り返りワークを実施し支援の見直しに努めた。	○
労働災害（メンタルヘルスや腰痛防止等）	車いす利用者の外出では、社協より車いす	△

対策と働き方改革を推進します。**有給取得率70%**	対応車を借り入れ対応するなど腰痛防止に努めた。週間シフトを作成することで、有給をとりやすい環境作りに努めた。	
情報共有の仕組みと職員全員が課題を確認し意見交換・集約する取り組みを検討します。	コロナ対応については、保護者・職員ともにメールを活用することで共有が迅速に出来た。	△

（4）安定した運営を目指します。

年間計画	取り組み	評価
特別支援学校等の実習生の受け入れや相談支援事業所と連携をして、新規利用者の増員を目指します。	安城特別支援学校から3年生2名・2年生5名の実習生を受け入れた。3年生については、令和5年度の新規利用者に結びついた。	○
予算経理状況を把握し、適切な収益性の改善に努めます。利用者の**出席率は88%**を目指します。また、日中一時支援も積極的に受け入れて行きます。	7月にコロナウイルス感染者増により施設閉鎖となった。昨年同様コロナ不安から通所を控える利用者もいた。日中一時の契約者は1名増え定期的な利用をされた。	△
遵守事項（特に服務規律とリスクマネジメント、コストなど）を念頭におき、意識を持って業務にあたります。	事故報告書・ヒヤリハット報告書作成時に対応策を考え、速やかな実行を心がけた。物価高騰のなかコストを下げることは困難であったが、同等品で安価なものを購入するなど意識をもった購入に心がけた。	○

《生活介護事業》

1．年間利用実績　※（　）昨年度実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数（人）	男性	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	348
	女性	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	276
	計	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	52	624
出席率（%）		84.4	76.9	86.1	67.0	64.5	82.5	84.3	83.0	74.8	77.7	82.9	83.9	79.0 (80.4%)

※1．在籍者数は初日在籍数

※2．出席率は在籍数に対する出席率

2．保護者との連携

（1）３ヶ月ごとの保護者会開催

（2）年２回の三者面談（モニタリング）をとおして利用者本位の支援の連携強化。
新型コロナを心配されている保護者には、電話対応で行った。

3．年間行事

月	日	施　設　行　事
4	12	保護者会総会
5	12	健康診断（半田医師会）
6	7	避難訓練
	28	お楽しみランチ（テイクアウト）
7	19	保護者会
	29	お楽しみランチ（テイクアウト）
8	5	安城農林高校性との交流会
	19	納涼会（かき氷）
	24	第三者評価受審(岐阜後見センター)
9	2	名古屋フィルハーモニーコンサート
	9	日帰り旅行(浜松エアパーク)
	16	日帰り旅行(名古屋港水族館)
	22	歯科健診/新型コロナワクチン接種(4回目)
10	26	えだまめ収穫交流会（池浦町日本デンマーク村）
	28	ハロウィン
11	25	お楽しみランチ（テイクアウト）
12	1	インフルエンザ予防接種
	23	クリスマス会
1	4	初詣(池浦天満宮)
	10	保護者会
	26	新年会(知立イーグルボウル)
	27	
2	3	節分
	9	新型コロナワクチン接種(5回目)
	24	お楽しみランチ(テイクアウト)
3	24	お楽しみランチ(テイクアウト)
	31	納会

月活動				
	嘱託医健診	サークル活動	体重測定	血圧測定
	ほっとサロン	市役所販売		

4．ボランティア受入状況（延べ人）　※（　）昨年度実績

区　分	計	区　分	計	区　分	計
一　　般	9	中高大学生	13	専門学校生	6
池浦福祉委員	0	サークル講師	18	民生委員	7
				合　計	53(33)

5．実習生受入状況（延べ人）　※（　）昨年度実績

区　分	計	区　分	計	区　分	計
専門学校生	20	大　学　生	69	特別支援学校	34
高　校　生	44	中　学　生	4	合　計	171(127)

6．授産事業

（1）作業指導のねらい

利用者個々の能力と適応性に応じた作業の技術習得と「はたらく」ことからの喜び・生きがいを実感できるよう支援した。

（2）工賃の支給額を作業状況、生活態度、対人関係を総合的に評価し決定した。

7．作業内容（作業別収入）

取　引　先	売上高（円）	内　　容
自主製品販売	24,868	布草履・座椅子
大見工業(株)	429,440	チップソー防錆液添付・箱詰め
増田煙火(株)	107,020	花火組み付け
都筑技研(株)	258,319	バイク部品組付け
山田製菓(株)	764,262	かりんとう・ドーナツ販売
安城市指定ゴミ袋販売	544,769	燃やせるゴミ袋等
(株)安城ポリエチレン	10,897	生花用ラッピング袋取りまとめ
(株)サカキバラコーポレーション	145,388	ゴム部品バリ取り
コーヒー豆	798,798	自家焙煎珈琲製造販売・豆チョコ
(株)ヤマノ	122,333	ナッツ販売
タクマ産業(有)	36,745	ダクトシール貼り・パッキン
杉本商会(株)	57,996	新聞店販促品(安城市指定ごみ袋詰め)
銀のさら	42,810	箸、醤油皿袋詰め
(株)アチーヴ	401,508	自動車部品パッキンはめ

安城市(清掃事業所)	385,000	土嚢袋にスタンプ押し作業
その他	168,500	農作物･セルプ・アルミ缶等
合　　計	4,298,653	

8．工賃支給実績

４月～３月工賃支給額計　　1,535,669円　　（前年度　　1,436,280円）
１ヶ月平均工賃支給額　　2,723円　　（前年度　　2,489円）
※１人あたり・賞与含む・小数点以下四捨五入

《日中一時支援事業》

1．事業内容

（1）特別支援学校生や在宅又は就労等している障害者の平日の日中における活動の場を提供し、簡単な相談を受けながら情緒の安定と本人の居場所をつくるとともに家族のレスパイトを目的に事業を行った。

2．年間利用実績（延べ人）　　※（　）昨年度実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者数	20	14	19	15	8	21	22	24	14	19	24	28	228 (207)

Ⅴ．アットホーム

《総括》

体調不良により長期の休暇から２名の常勤職員が復帰して、令和２年度以前の体制が復活しきめ細やかな支援ができた。

７月にはこやまホーム利用者・職員がコロナ陽性となりホームを閉鎖することになった。また８月にはホームぬくもり利用者全員と職員、めろんぱん利用者がコロナ陽性となり利用者は特定の職員による支援のもと一定期間ホーム内ですごすこととなった。１月にもめろんぱん利用者がコロナ陽性となりホーム内待機を余儀なくされた。あらためて感染予防の難しさを痛感させられた１年間であった。

年度末には合同の保護者会を開催し厳しい運営の現状と、将来に向けて訪問薬局のサービス内容について伝えご理解いただいた。

１．重点目標に対しての評価　　評価：〇できた・△だいたいできた・×できなかった

（1）自分らしい暮らしの支援

年間計画	取り組み	評価
日頃から利用者様のストレングスに着目した支援をします。また、個別支援計画にも本人の持つ個性やストレングスを盛り込み、それを活かして自分らしい生活ができるよう支援します。	支援計画に基づき、本人ができることは可能な限り本人に行っていただいた。また、ホーム内で役割を持っていただき「役に立っている実感」得られるように支援を行った。ただ、全員が支援計画を意識して支援していたかは疑問が残る。	△
充実したオフタイムを大切に「自分の家」にいるようなホッとした気持ちになれるホームを目指します。	リビングや居室など、自発的に好きな時に好きな居場所で好きなことをするなど、各利用者が思い思いにリラックスして過ごすことができていた。	〇
季節に応じた食事やイベントを通じて、豊かでぬくもりある生活ができる環境を提供します。	コロナ禍ではあったが、感染対策を徹底しながら誕生日会やクリスマス会などのイベントを行なった。また季節に応じた飾り付けや日帰り旅行などで利用者・保護者から喜んでいただくことができた。	〇
「やりたくない」の気持ちも大切にして無理な押しつけはしません。	基本的には利用者の意向を尊重しているので押しつけることはないが、業務時間をつい優先してしまう場面も少し見られた。	△

（2）安心した暮らしと健康管理

年間計画	取り組み	評価
より質の高い個別支援計画によるサービス実践により満足度を高めます。	今年度は感染対策を講じて対面での個別面談も増えてきた。コロナ禍ということもあり、必ずしも計画通りに進められないこともあった。個別支援計画を利用者本人にわかりやすくするため様式を一新した。実験的にイラストや写真を挿入し好評であったが全利用者に行き届いているわけではない。	○
サービス管理責任者とスタッフ間の報・連・相を徹底し情報が円滑に伝わるよう努めます。またその方法を探求していきます。	対面の打ち合わせや電話やラインでの報告・連絡・相談を行ってきた。また毎週フェイスタイムをＺｏｏｍで行い、情報共有できる機会を確保できた。	○
自己評価を通し、自らのサービスを見直す機会を設けて現在ある課題を見極め改善することでよりよいサービス提供に努めていきます。	第三者評価を受審した。概ねよい評価をいただいただたが保護者への情報周知が弱いという課題が見えてきたので改善につなげていく必要がある。	△
訪問看護やスタッフとの連携により、感染症予防と健康管理に努めます。	５回目のコロナワクチンやインフルエンザワクチン接種を全員済ますことができた。またスタッフについては定期的なＰＣＲ検査の実施により健康管理を徹底した。 ８月にホームぬくもりとめろんぱん、１月にはめろんぱんで陽性者が出たが幸い重症化することはなかった。感染者および濃厚接触者がホーム内での療養・待機を余儀なくされたがスタッフの協力により乗り切ることができた。	△

（3）権利擁護意識の向上

年間計画	取り組み	評価
利用者様には「○○さん」と呼ぶことを徹底します。	多くのスタッフは確実に「さん」付けで呼んでいるが、まだ一部の職員が「ちゃん」「くん」で呼ぶ場面があった。	△
ホームスタッフが一同に集っての全体ミーティングを行い、情報共有や親交を深めます。	ホームごとにミーティングは行われているが、全スタッフが集まる機会はなかった。	×
インターネットを使った「サポーターズカ	毎月のミーティングの際に必ず視聴した。	△

レッジ」の講座視聴や研修参加などを通して利用者の権利擁護意識を高めスタッフ一人一人の育成を続けていきます。	非常勤職員の意見を聞きながら興味があったり、支援に関連する講座を選択した。 権利擁護等に関する外部研修には可能な限り参加した。ただ、内部的には虐待防止委員会・身体拘束適正化検討委員会の動きが鈍く、活性化が来年度への課題である。	
安城市自立支援協議会と協働して、支援者を育成するための講座を開催します。またホームに関する啓発活動を通じて人材確保にも努めます。	自立支援協議会の下部組織である「くらしグループ」主催の世話人等確保事業の活用で、ホームの見学会を行い、実際にホームぬくもりに見学者が４名見学に来られた。	○

《共同生活援助事業》

１．年間利用実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数（人）	男性	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96
	女性	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	60
	計	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156 (156)

※１．在籍者数は初日在籍数

※２．めろんぱん（定員５名）・ホームぬくもり（定員４名）・こやまホーム（定員５名）

Ⅵ. ぬくもりの郷

《総括》

ぬくもりの郷は、利用者の生活を総合的に支援することを目的とした事業所であり、本来別の事業である生活介護事業、共同生活援助事業、短期入所事業、日中一時支援事業が有機的に連携できる仕組みづくりに努めてきた。

令和３年度より生活介護事業所が放課後等デイサービスとの多機能事業所となっている。職員同士の連携はもちろんのこと、障害児を指導することにより障害者福祉の学びを深める契機となり互いに相乗効果が出せるようにしてきた。

前年度に引き続き、新型コロナウィルス感染症拡大防止のため、やむを得ず行事を中止若しくは縮小することがあった。また、職員、利用者に陽性者が出たことから、生活介護事業、放課後等デイサービスは施設閉鎖を２回実施し、利用者及び利用者家族に迷惑をかける結果となったが、グループホームは閉鎖をせず衛生管理体制をとった上で継続できたことは、セーフティネットとしての一定の役割を果たしたと思われる。

生活介護事業は、コロナ禍にあって在籍者数が毎月増減する中で例年との単純比較は困難であるが、出席率は81.8%の利用となり、わずかながらではあるが前年比2.2%の増となった。

共同生活援助事業は、生活介護事業所が閉鎖する中で事業を継続した。コロナ禍の支援で得た経験を今後に活かし、さらなる有事に備え、スタッフの意識、様々な知識の共有を目指し、サービスの低下を招かないよう、支援体制の充実を図りたい。

日中一時、短期入所は、生活介護、共同生活援助の感染症対策に注力するため、緊急以外の利用を控えてもらうよう協力をお願いしたこともあり、大きな影響が出ることなく事業を行うことができた。

緊急時の受入れについては、希望のあった6名すべての受入れを行っており、地域生活支援拠点の一躍を担うことができたと思われる。

放課後等デイサービスは、サービスを開始して2年目となり、固定の利用児の利用、相談支援事業所等からの紹介で契約者も増え、毎日の利用児の数も安定してきた。引き続き利用児にはまた来たいとと思わせる魅力的なカリキュラム、質の高いサービスの提供を通じて、ファンを一人でも増やしていけるよう務めていきたい。

１．重点目標に対しての評価　　評価：〇できた・△だいたいできた・×できなかった

（1）サービスの質の向上

年間計画	取り組み	評価
利用者の人権を尊重し、個人の尊厳を守ることの重要性について認識が深められるよう研修等を通じて、虐待防止法など社会的ルールの遵守の普及・啓発に努めます。	虐待防止について常勤職員を対象に定期的に啓蒙し、非常勤職員に対してはオンライン学習によって理解を深めた。事業所毎の委員会の取り組みは消極的なところがみられる。	△
現在のサービスが的確に行われているか確認するため、福祉サービス第三者評価の受審、利用者満足度調査を実施します。	第三者評価の結果を受け、要改善点はすみやかに改善するよう努めた。 利用者満足度調査は、前年度同様行い、ほぼ満足しているとの結果になった。	〇
利用者の重度、高齢化の対応を的確にできるよ	高齢障害者への取り組みは研修等の派遣により	△

う、支援力、介護力ともに質の高い人材の教育育成に取り組みます。	実施したが、知識と実際のサービスの提供が伴わなかった。	
日中サービス支援型グループホームへの移行計画を協議検討していきます。	法人の経営状態を鑑み、改修費用を伴う移行計画を延期した。	×
生活介護、グループホームにおいて、家族の高齢化に伴い、必要な利用者の通院同行ができる体制をつくり、さらなる医療との連携を深めていきます。	生活介護、グループホームと嘱託医、訪問看護ステーションの連携をとり、必要な医療の提供の機会と通院同行を適切に行ってきた。	○

（2）地域との交流と連携

年間計画	取り組み	評価
コロナ禍の中でも実習生・職場体験等の学校教育への協力、ボランティアの育成、地域住民との交流等を通じて、地域の福祉に対する理解を促進し、地域における福祉文化の醸成に取り組みます。	コロナ禍のなか実習生等の受け入れは前年度同様行っており、その都度実習生に感想を聞き、知的障害者福祉への理解の深まりを感じることができた。	○
安城市の地域生活支援拠点等のとしての一翼を担うため、緊急時の受入体制を整えます。	コーディネーターとの連携をとりつつ、4件14日の利用があり一定の役割を果たした。	○

（3）生活環境・利用環境の向上

年間計画	取り組み	評価
新型コロナウィルス感染症をはじめとした感染症の予防・拡大防止対策を徹底し、まだまだ続くであろうコロナ禍の中でも利用者に楽しんでもらえるような活動を提案していきます。	コロナ禍の中外出がままならない中、キッチンカーなど利用者に喜んでもらえることを企画した。感染防止に配慮しつつ、日帰り旅行も実施した。	○

（4）人材の育成・確保・定着

年間計画	取り組み	評価
労務管理における責任体制を明確にし、適正な労使関係の構築に努めるとともに、一般事業主行動計画の確実な実施により職員一人ひとりが働きやすい職場環境づくりに努め、定着につなげていきます。有給休暇取得率は70%を目指します。	シフト制で不規則になりがちな勤務をなるべく職員に希望に添えるような勤務体制つくりに努めた。有給休暇の取得率は94.7%と余裕をもって目標に達した。	○
ＯＪＴ（職務を通じての研修）を「職場研修の基本」に位置づけるとともに、一人ひとりの職員の成長段階に応じた仕事量の配分とそこで必	支援のみならず介護技術の向上を図るよう取り組んできたが、より計画的に行う必要があった。コロナ禍で対面研修が難しい中、その代替	△

要となる教育、研修の実施を行います。	としてオンライン学習を進めたが、積極的な学習はみられず、計画どおり進まなかった。	

（5）安定した財務基盤の構築

年間計画	取り組み	評価
財務諸表等に基づく経営分析等により、稼働率、人件費率など事業の運営状態を適切に把握し、適切な収益性の改善に繋げます。生活介護事業の稼働率は90%を目指します。グループホームは、現員を定員の100%にします。	利用者満足度を高めつつ、稼働率を増やせるよう取り組んだが、コロナ禍の影響を受け稼働率は81.8%となり、目標に達しなかった。グループホームは定員の100%を達成した。	△
常に利用者サービスを中心にした事業展開が図るとともに、現在の報酬体系の理解、利用者の支援区分の把握、介護保険制度との連携を通じて、適切な収益性の確保に向け、その事業の将来性、継続性を見通した計画的かつ効率的な事業運営を行います。	現在の報酬体系で加算のとれるものは積極的に取り組みを行い、計画的な運営を目指す工夫をしたつもりだが、職員一人ひとりへ浸透するまで至らなかった。	△
限りある資源を有効に使い、効果性、効率性の高い運営管理を実現するため、職員全体のコスト意識を醸成するための取り組みを行います。	事業計画書の作成を通じて、予算管理の重要性を理解できるようにしたが、職員全体には周知が足らなかった。	△

《生活介護事業》

1．年間利用実績　※（　）昨年度実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数（人）	男性	8	8	8	9	10	8	9	9	9	8	9	8	100
	女性	7	7	7	8	9	8	8	8	9	7	9	8	95
	計	15	15	15	17	19	16	17	17	18	15	18	16	195
出席率（%）		80.3	79.7	82.7	80.9	83.3	81.5	86.9	86.6	57.6	87.6	87.3	86.9	81.8 (79.6%)

※1．在籍者数は初日在籍数

※2．出席率は在籍数に対する出席率

2．年間行事

月	日	施　設　行　事
5	9	健康診断
6	23	歯科健診
	24	避難訓練
8	26	夏まつり
9	1	福祉コンサート
	5	新型コロナウィルスワクチン接種
10	21	ハロウィン
	24	避難訓練
	28	日帰り旅行
11	14	インフルエンザ予防接種
12	12	新型コロナウィルスワクチン接種会
	24	ボッチャ大会
1	13	新年会
2	2	節分
3	10	シュガーノートライブ
	30	避難訓練

月活動	誕生日外出	わくわくランチ	チャレンジスポーツ	アート書道
	音楽療法	リラクゼーション	個別活動	機能訓練
	嘱託医健診	調理実習		

3．ボランティア受入状況（延べ人）

区　分	計	区　分	計	区　分	計
一　　般	2	大学・専門学校	4	サークル講師	0
民生委員	8	高　校　生	4		
中　学　生	1	小　学　生	8	合　計	27(5)

4．実習生受入状況（延べ人）

区　分	計	区　分	計	区　分	計
社会福祉士実習	36	教員介護体験実習	40	福祉科高校生	22
看護学生	20			合　計	118(82)

《共同生活援助事業》

1．事業内容

（1）利用者が自立を目指し、地域において共同生活を営むことができるように個別支援計画を作成し、それに基づき世話人等より生活する上で苦手な部分（食事や健康管理等）の支援を受け、安心して生活できるよう努めた。

（2）地域とのつながりを大切にするため町内会に加入し、町内一斉清掃、防災訓練等の地域が開催する行事にコロナ禍のため可能な限り参加するなど地域住民と理解を深めるよう努めた。

2．年間利用実績　※（　）昨年度実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数（人）	男性	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	156
	女性	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84
	計	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240 (240)

《短期入所事業》

1．事業内容

（1）居宅において介護を行う者の疾病その他の理由により、短期間の入所を必要とする利用者に対し、その利用者の身体その他の状況及びその置かれている環境に応じて必要な支援を行った。
主には「家族の入院」「家族の不幸」などの緊急時対応と「将来に向けて宿泊訓練がしたい」という希望、さらには「家族の介護負担の軽減」のニーズがあり、なるべくニーズに応えるよう努めた。

（2）グループホームとの併設型であるため、グループホーム利用者の生活の安定を優先し、受け入れも安全面を十分に配慮するように努めた。

2．利用実績（延べ人）　※（　）昨年度実績

事業所名	家	ワ	ま	郷	虹	他	計
利用者数	162	94	57	3	2	1	319 (204)

《日中一時支援事業》

1．事業内容

（1）日中における活動の場を確保し、利用者の情緒安定を図ると共に、家族のレスパイトを目的に事業を行った。

2．利用実績（延べ人）　※（　）昨年度実績

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者数	153	153	129	135	126	152	162	154	95	157	128	153	1,697 (1,732)

《放課後等デイサービスぬくっこ》

1．事業内容

（1）13歳から18歳を対象とし、学校終了後及び、祝日・長期休暇に利用してもらい、日常生活における基本的動作や知識技能の習得とともに、集団生活に適応することができるよう、利用児童に合わせた支援を行った。

（2）体力向上を目的とし、歩行や外遊びなど身体を動かす時間を設けた。

（3）学校卒業後のライフステージを見据えた課題の設定や、法人内の成人施設への体験利用の機会を提供した。

（4）さまざまな経験を得られるよう、特に長期休暇中にイベント（水族館や動物園へのお出かけや、あんくるバスの利用・買い物体験など）を企画、実行した。

2．利用実績（延べ人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者数	119	133	131	125	93	135	136	135	108	129	151	180	1,575

（昨年度実績：903人）

Ⅷ．相談支援事業所　ぬくもり

《総括》

事業計画の基本方針に基づき、個人としての「希望する生活」を具体化することや「希望って何？」という保護の対象として積み重ねてきた経験等の影響による「潜在的なあきらめ感」にも目を向け、ケアマネジメントの手法にて計画相談支援を行った。

１つの事業所に３人の専任相談支援専門員配置という恵まれた環境があり、お互いのケース応対や支援行動を身近なところで感じ、それぞれの気づきにつながるメリットがあった。また、担当者が不在であっても他の相談支援専門員が代役にて補うことができた。反面、事業運営の視点に置き換えると、安城市から年間３６０万円の補助金がありながら、事業単体では厳しい事業運営となっている。独立採算が可能な事業運営が望ましいが、利用契約者を増やすことや人員削減以外に劇的な事業改善策が見当たらないため、現状の手厚い相談支援環境がある間に、相談支援専門員一人ひとりの知識、技術等全ての面においてスキルアップに取り組み、利用契約者数の増加と今後見込まれる相談支援事業の範囲拡大に向けて、質の高い支援が継続的に提供可能な体制を構築していく必要がある。

コロナウイルスも３年となり、国や自治体等から発信される感染に関する対策等の情報を常に共有し、事業所内と個人の行う対策を組み合わせて、相談者一人ひとりの思いに寄り添った相談支援を実行した。ＺＯＯＭを活用した会議や研修会が対面式開催され、会議や議論、研修会参加で得られる知識と情報の質が高まった。ひとつひとつの学びや経験が今後の支援に活用され、効果が表れてくることが期待される。

今後の課題として、地域で選ばれる相談支援事業所を目指す過程で、相談支援専門員に求められている基本視点である「本人中心」「社会モデルの視点」を磨き、障害者権利条約に批准している国における障害者支援の在り方や現在も地域に根強く残る課題を「みんなで寄って集まり」発信、行動するための中心的な役割を担っていく事ではないかと考える。

１．重点目標に対しての評価　　評価：〇できた・△だいたいできた・×できなかった

（１）「本人中心」の相談支援に努めます

年間計画	取り組み	評価
日常の基本相談支援を基盤として、サービス提供事業所とのアセスメント共有を行い、家族・支援者の本人理解を深めます。	面談時に偏ることなく、家庭や事業所への訪問機会、契約者や関係者の状況に応じて連絡のできる環境をつくり相互理解を深めた。	△
相談者の生活歴、家庭風土を理解し、当事者の価値観や自己決定を尊重した支援を行い、体験の積み重ねによる意思表出による、ガイドラインに基づいた「意思決定支援」に努めます。	家庭での姿や事業所等の社会参加時の情報を基に契約者から表出される言葉や表情、行動から、興味関心が自主性や新しい体験につながりそうな情報について合理的配慮を行い伝達した。 評価の理由は、相談員自身に「意思決定支援」やガイドラインの理解が不十分の可能	×

	性があること。	

（2）利用者の生活の質の向上と関係機関との「連携」

年間計画	取り組み	評価
「サービス担当者会議」で共有された支援による、利用者の希望する生活の実現と体験を通して変わりゆく価値観に寄り添い、本人を中心とした支援チームがスムーズに役割を果たすことができるよう総合的に各種専門機関、地域のインフォーマルな資源との連携・調整を行います。	契約者から発信された希望や気付いていないニーズに対して、情報提供から体験の機会、支援機関とのつながりをつくり、生活の質向上や人付き合いの範囲が拡大した。 また、生活の基盤を整えるために、支援機関への情報提供を行い、まずは最低限の生活保障が満たされるよう環境づくりと連携を取ることのできる体制をつくった。	△

（3）地域課題の情報収集と社会資源の改善・開発の提案

年間計画	取り組み	評価
「個別支援会議」や「サービス担当者会議」等において表出された個別のニーズから、社会資源の改善や開発につながるように、自立支援協議会の仕組みや福祉サービス事業所等とともに、法人（ぬくもり福祉会）で寄与できることも模索し、地域課題の解決に向けて発信・協働します。	自立支援協議会「そうだんグループ」への参加を軸として、共生のまち部会の報告、例外的支給や地域体制強化共同支援加算の事例から個別課題の抽出を行った。 昨年度に続き、法人内各事業所が備えている機能が効果的な活動、役割につながるよう、相談支援事業所主催の研修会を開催し、基本確認や機能向上につなげる機会をつくった。	○

（4）専門スキルの研鑽とモニタリング精度の向上

年間計画	取り組み	評価
定期的(毎月1回)にミーティングを行い、現状の課題や担当者が不在時にもスムーズに対応できるように利用者の情報共有をします。また、利用者の基本情報理解の範囲を広げ、複数の視点で生活状況や支援経過を確認・検証することで、計画相談支援の質の向上に努めます。	計画通りにミーティングを開催し、各担当が計画相談支援を行っている中で、動きや変更のあったケース、カンファレンス等を行って支援を進めているケース等の報告を行い、複数の視点から活用できそうな意見や助言、気づきにつながる機会を作った。 自身の担当以外の面談等に同行した。	△
自立支援協議会や愛知県相談支援専門員協会等の研修会に積極的に参加し、地域課題等の問題解決力と相談支援専門員の質の向上に取り組みます。	公的に発信される研修等の情報から、研修会や勉強会、事例検討会に参加した。	△

２．契約者数（人）

令和４年度利用契約者（令和３年度契約者数）

・ぬくもりの家　　26名（26名）　　・ぬくもりワークス　44名（46名）

・まるくてワークス　41名（41名）　　・ぬくもりの郷　　12名（13名）

・アットホーム　　0名（0名）　　・安城市虹の家　　9名（10名）

・法人外利用者　　85名（82名）

合計　217名（218名）

（１）変動理由

ア．法人内利用者

・新規利用契約者　２名

・死去　１名

・法人外事業所利用　３名

イ．法人外利用者

・サービス終了　１名

・法人内から法人外事業所利用　３名

３．事業報告

（１）研修参加

5月11日（水）　虐待防止委員会の役割と運営方法（基幹相談センター）

12月 2日（金）　全国相談支援ネットワーク研修会１日目

3日（土）　２日目（ＮＳＫ）

1月24日（火）　虐待防止研修会（基幹相談センター）

3月11日（土）　地域移行・定着研修会（ＡＳＫ）

（２）自立支援協議会　そうだんグループ

４月　例外的支給、共生のまち部会の報告、訪問入浴、体験部屋など

５月　例外的支給、入浴PT報告、今年度の取り組みについてなど

６月　例外的支給、事業所実績報告書の依頼、防災アンケート、地域課題の分析など

７月　コロナウイルス拡大のため中止

８月　防災アンケート、例外的支給、課題整理シートの共有、そうだんグループの役割など

９月　例外的支給、入浴PT報告など

10月　例外的支給、防災アンケート、地域課題の分析、令和４年度中間報告など

11月　ヤングケアラー調査、Ａ型事業所利用、グループ支援型移動支援、モニタリング報告書の実態調査、サービス等利用計画書について、地域体制加算振り返りなど

12月　地域体制共同支援加算、例外的支給、「親心の記録」の使用についてなど

１月　地域体制共同支援加算、例外的支給、次年度の課題、入浴PT報告、計画書の署名など

２月　例外的支給、日中支援型グループホームへの質問、次年度の課題と取り組みなど

３月　例外的支給、市役所からの連絡事項、スキルアップ勉強会など

（３）そうだんグループ　勉強会、交流会

9月21日（火）　精神障害にも対応した面接方法

11月11日（金）　ケアマネとの交流会

12月27日（火）　地区社協、CSWとの交流会

3月22日（火）　サービス担当者会議の進め方 ～よりよいチームを作る為に～

（４）相談ぬくもり主催研修会

「障害者虐待の防止の手引き共有」

「各事業所における虐待防止委員会の活動について」

10月19日（水）／26日（水）同じ内容にて２回開催

Ⅶ．安城市虹の家

《総括》

令和４年度は利用者21名でのスタートであったが、年度途中に利用者２名が異動し、利用契約者19名となった。今年度は家族（父母）が他界された方が２名があり、本人の体調不良や家族を含めた高齢化で自力通所できない方の出勤率が低下した。今後の重要課題といえる。

できる限りの新型コロナウイルス感染予防対策を講じながら事業継続を行ってきたこともあり、職員や利用者の陽性者も出たがクラスターとなる事もなく出勤率も若干下がったが事業を継続することができた。

作業収入においては新規作業等の導入をしてみたが、全体的には収入減となってしまった。

県の実地指導・市の監査、そして第三者評価を受審し安城市虹の家の運営面での透明性を確認するいい機会となった、軽微な指摘事項はあったが、総合的に「利用者本位の事業所運営ができている」と高評価を得た。

利用者には令和４年度から「傾聴ボランティア」を導入した事で、話す喜びや大切さ、作業とのメリハリがつき、利用者から好評であった。

職員には「ABA応用行動分析研修・コロニー小林先生」と「高次脳機能障害・笑い太鼓」と「性教育について正しい理解・宮本先生」のオンラインズーム研修会を開催し、専門性スキルの向上と意識を高めることができた。

１．重点目標に対しての評価　　評価：○できた・△だいたいできた・×できなかった

（１）利用に対するサービスの向上（利用者に対する基本姿勢）

年間計画	取り組み	評価
利用者、母親だけでなく父親や兄妹との関係構築に向けた取り組みを検討していきます。 ※　活動経過報告会年３回父子行事開催	コロナ禍における環境に留意しながら、活動報告会（保護者会）を３回実施（うち１回茶話会）し、今後の指定管理の方向性の確認等を安城市障害福祉課からも２名が参加し、保護者からの率直な意見や質問に答えるなど意見交換ができた。 家族の高齢化が進む中、必要な家族には父母だけでなく兄妹への面談参加などの体制作りを行った。	○
社会生活での必要なスキル・マナーの向上に努め「働く・余暇の充実」への意識を高め、利用者一人ひとりが「働く目的・余暇の充実」を明確にして、生きがい、満足、感動のある気持ちを高めていきます。 ※　就労セミナーを年２回、社会体験、パソコン体験	セミナーで「性教育について」を一緒に学ぶ機会を実施した。講師は安城特別支援学校の教員に依頼し、社会性を身に着ける上で必要ルールと、誤解を招かない行動を知り理解する事を身に着け、大切な自分自身の体への理解を促した。日頃支援者が伝えている事を外部講師の方が伝える事でより理解を深めることができた。	○

作業種目の見直し、作業以外の活動の提案等、活動の選択の幅を広げるとともに工賃向上を目指します。目標月額平均工賃13,000円、新規作業・活動を導入	新規作業（クッキーの袋詰め作業）の導入や、新規作業の受け入れのための打ち合わせを行ったが、全員が携われる作業の導入にまでは結びつかなかった。	△

（２）地域との連携を強化（社会に対する基本姿勢）

年間計画	取り組み	評価
地元町内会との関係を深め、福祉に対する理解の促進を目指し開かれた施設を目指します。	コロナ禍で販売機会が減少しているが、末広ピクニック(販売)へ定期的に参加した。七夕まつりへの参加も予定していたが、法人全体がコロナ禍で中止した。少しずつではあるが施設や製品の認知度が広まっていると感じている。土曜日を施設稼働日にして城南町内会の祭りに参加し山車の引きなどにも参加させていただき、交流を深めた。	○
行政と連携して、地域福祉推進や災害時における安全・安心な生活確保に協力します。	城南町内会の防災訓練に参加し、消火訓練・炊き出し訓練・防災時のトイレ対応・井戸水のくみ上げ訓練等を地域の方と一緒に行った。 追田川増水による水の氾濫被害にあった時には、町内会やあんステップ職員、安城市障害福祉課と連携し、がれきなどの漂着物や清掃を行った。	○

（３）人材育成と職員のスキルアップ（福祉人材に対する基本姿勢）

年間計画	取り組み	評価
外部研修、施設見学を強化します。 ※障害特性に特化した施設への見学、または勉強会を実施し専門性のスキルを強化します。	「ＡＢＡ応用行動分析研修・コロニー小林先生」「性教育について・産婦人科医宮本医師」「高次脳機能障害・笑い太鼓加藤先生」をオンラインにて研修会を行い、専門性スキルを高めた。	○
虐待防止委員会を通して「虐待に対する取り組み」に必要なスキルを向上させ、権利擁護意識の向上に努めます。	権利擁護・虐待防止法の研修参加とサポカレを通して勉強会を行い、意識を高めた。また毎日５分ミーティングを実施し情報共有を図った。	△
「傾聴・接遇・販売スキル・レクリエーション」など様々なスキルの習得を目指します。	働くルールの見直しを利用者と一緒に考えながら「働く事の大切さ」を自治会で話し合った。また「性教育について」安城特別	△

	支援学校教員から「正しい距離感」「誤解されない」行動について学んだ。ほかにも安城警察署生活安全課の方には「軽犯罪などに巻き込まれない、巻き込まない」と言う講話を聴いた。	

（４）施設における環境づくり

年間計画	取り組み	評価
コロナ禍における衛生管理に努め安心で安全な環境造りをおこないます。	マスク着用への協力が100％であり、家族の協力のもと、自宅と施設で毎日検温し常時体調管理に努めた。噴霧器による消毒を定期的におこなった。体調不良者(発熱)には、抗原検査キットの活用を行い現状把握に努めた。	△
適度な運動量で体を動かす場面を設けることで、現在の体力や健康を維持したい。	朝のラジオ体操後に柔軟運動と筋力運動（自重運動）を導入し、姿勢保持や足腰の筋力維持のため行った。また必要に応じて器具を用いた運動も行っている。	△
メールやＳＮＳ等を活用し施設保護者間での情報共有を強化したい。	各種報告や、販売会のお知らせ、暴風時の連絡など電話以外にもメールなどで情報共有を図ることができた。利用者家族との普及率は94％メールにての情報共有ができているため100％を目指したい。またＳＮＳでクッキー製品などの情報発信も行った。	△

《就労継続支援Ｂ型事業》

１．年間利用実績　※（　）昨年度実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数（人）	男性	10	10	10	10	10	10	10	10	10	9	9	9	117
	女性	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	10	10	124
	計	21	21	21	21	20	20	20	20	20	19	19	19	241
出席率（%）		78.7	71.4	79.0	70.3	69.8	75.2	74.5	73.4	70.0	70.8	75.8	78.0	74.0 (78.8%)

※１．在籍者数は初日在籍数

※２．出席率は在籍数に対する出席率

２．年間行事

月	日	施　設　行　事
4	3	昭林公園お花見
5	3	BBQ　防災訓練
	9	健康診断
6	5	末広ピクニック参加
	23	歯科検診
7	1	傾聴ボランティア
	29	活動報告会
8	2	傾聴ボランティア
9	1	キッチンカーイベント
11	4	傾聴ボランティア
12	4	末広ピクニック参加
	21	防災訓練
	23	お楽しみ会
1	6	傾聴ボランティア
	27	活動報告会
2	10	防災訓練
	21	キッチンカーイベント
3	3	傾聴ボランティア
	11	活動報告会　茶話会

３．ボランティア受入状況（延べ人）　※（　）昨年度実績

区　分	計	区　分	計	区　分	計
一　　般				合　計	(15)

４．実習生受入状況（延べ人）　※（　）昨年度実績

区　分	計	区　分	計	区　分	計
中　学　生	２（0）	特別支援学校	２（0）	合　計	４(0)

５．作業内容（作業別収入）　※（　）昨年度実績

取　引　先	売上高(円)	内　　容
クッキー製造（自主製品）	785,750	クッキー・チュイール 製造・販売
あんステップ	1,052,370	トイレ・会議室・廊下の掃除
杉本商会	413,634	ゴミ袋封入作業
富士カーボン	281,086	カーボンブラシ箱詰め作業
アルミ缶	11,840	アルミ缶潰し作業
アチーヴ	1,096,813	自動車部品組み立て
その他	27,958	クッキー袋詰め作業
合　計	3,669,451	（4,220,541）

６．工賃支給実績

４月～３月工賃支給額計　　3,207,791円　　（前年度　　3,643,381円）
１ヶ月平均工賃支給額　　13,767円　　（前年度　　14,401円）
※１人あたり・賞与含む・小数点以下四捨五入